学びのあれこれ　No.75

東京都小学校教職員地区対抗卓球大会に参加した思い出

１　はじめに

先日，本校の○○先生の所属する○○区野球部が東京都 50 地区の頂点に立ちました。本当におめでとうございます。日常の職務を遂行しながらの快挙に頭が下がります。それがどんなにすごいことなのかは，本人とその関係者しか分からないことでしょう。

本校もテニス大会において昨年と 3 年前に本区で優勝し，都大会に出場することができました。今年は優勝できませんでしたが，幸運にも都大会に出場する機会を得ました。

２　都大会とは

都大会は，地区で優勝した学校が集まって競う大会，地区の代表選手で構成される地区対抗戦，個人戦に大別されています。

種目は，野球，バレーボール，テニス，バドミントン，卓球などです。水泳や陸上競技もあります。

３　卓球大会に参加した思い出

私は，昭和 57 年の地区対抗卓球大会から参加し始めました。当時は豊島区の代表選手に入れてもらいました。

しかし，何度も出してもらったのに，１回も勝てず，悔しい思いをしました。

層が厚い杉並区に移ってからは，レベルが違いすぎて練習会すら行けませんでした。

それでも練習を続けていると，チャンスはやってきます。本区に来て９年目，平成 11 年１月 24 日(日)，９時３０分から目白学園中・高等学校にて区市対抗の卓球大会が開催されました。私は，幸運にも代表選手の一人となり，対戦して参りました。

選手は，６人。シングルス４，ダブルス１という組み合わせです。

１回戦目の相手は，杉並区でした。本大会でも何回か優勝している区です。しかし，私が在籍した頃とは，メンバーが替わっていました。本区のメンバーは，すぐ負けるだろうと予想し，「早く一杯やろうよ。」と話しておりました。それほど，本区は１回戦負けが多かったのです。

ところが，１つ目のシングルスを２－０でとって，歓喜の声が体育館いっぱいに響き渡りますと，メンバーの誰もが「もしかしたら」という思いが湧き起こってまいりました。本当に１番目に勝つというのは大事なことで，メンバーの志気を高めます。

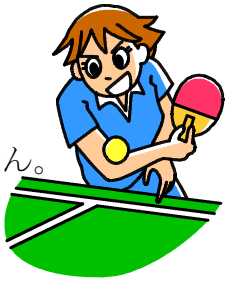
そして，２つ目のシングルスは，私なのです。プレッシャーに負けまいと，「無欲，無欲！」を心がけ，対戦することになりました。その頃は，今とルールが違って，21 本 3 セットマッチでした。

１セット目，２１－１９で，やっとの思いで勝ちました。しかし，２セット目は，あえなく負け。フルセットになりました。本区のメンバーは，大変よく応援してくれて，１球１球に熱がこもります。大事なところでは，わざわざ寄ってきて声をかけてくれました。それでも，シーソーのようにゲームは進んでいきました。１８－１７になりました。あと，３本という時になって守りに入ってしまいました。そんなときは，やはりだめなもの。すぐに逆転され，１８－１９になってしまいました。ここで，ふっと汗をぬぐい，練習したことを思い出しました。「相手だって苦しいんだ。」と思ってからは吹っ切れました。

丁寧にレシーブしたら，なんと３本連続で相手がミス。最後の瞬間には，思わずばんざいをして跳び上がっていました。自分で自分が信じられない。そんな感じでした。本区のメンバーも大騒ぎ。忘れられない瞬間でした。

次のダブルスも２－０でとって，北区はベスト８となったのです。びっくりです。

しかし，上には上がいるというもの。２回戦目に，私が対戦した相手は滅法強く，１セット目は４本，２セット目はたったの３本しかとれませんでした。レベルが違いすぎました。ちょうどその頃，全日本ジュニア女子（高校２年生以下）の部で準優勝した，小学校４年生の天才卓球少女「愛ちゃん」が話題をふりまいていました。

自分の負けで，２－３で本区は負け。うーん。でも，とてもいい汗をかきました。

そして，その後も出場し続けて，10 年後。平成 21 年には，
○○先生と共に出場した
都大会で，本区は３位と
なりました。
今でもその瞬間を忘れません。